



# ザ・レッドクロス みずうみ

日本赤十字社島根県支部 みずうみ赤十字奉仕団

## 赤十字への思い、あれこれ

松江赤十字病院 院長 大居 慎治



私は中学校時代には青少年赤十字（JRC）に所属

していた。中学2年の夏休みに同級生2人と一緒に青少年赤十字トレーニングセンターという研修会に参加した。会場は当時松江市灘町にあった県立青少年の家で、県内から50名ばかりの中学生が集まっていた。田舎者であり周りは賢くて洗練された生徒ばかりで、後れしたことを覚えている。レクリエーションの中で赤十字の歴史や救護の仕方、三角巾の使い方などを習った。この研修会で初めてボランティアという言葉聞いて感動した。「自ら進んで」という語源らしいが、英語では志願兵という意味もある。ただ父は戦争に翻弄された世代で、半ば騙されたように予科練を志願した父は、軍部のいう志願の精神に欺瞞を感じていた。ヒロイックな気分では応召することはよくないと常々言っていた。

動したが、真面目に働くことをカッコよしとはしない世代であるので、態度は粗野であったかもしれない。同じ班に一昨年ナイチンゲール賞を受賞された伊藤明子さん（現名古屋第二赤十字病院副院長）がいて、国際赤十字委員会からの派遣で国際救護に携わった話を聞いた。危険な思いをしたこともあったようだ。学生時代に赤十字の国際救護活動のことを学ぶ機会があり共感したから、とのことだった。でもそれだけではないだろう、その勇気はどこから出たのかについては聞きそびれてしまった。人道という赤十字の原則は19世紀的でいかにも古い。日本は平和になったし、平等で公正な社会も実現しているように思う。国内では援助の手を差し伸べる機関はいろいろできた。救護から帰ったあと、赤十字の存在感があまり感じられなかったことを反省文に書いた。

数年前病院の医療社会事業部の担当になり、また赤十字と向かいあうことになった。平時は救護班の編成、奉仕活動、島根県支部とのやりとりなど、有事は救護班を出動させ支援をする役割である。救護班員の中には活動の意義は理解するが赤十字の重要性を信じてない班員もいる。質問されたらどのように答えるか、また自問自答が始まった。ようやく出た答えはあらゆる場合に患者や被災者の側に存在すること、活動者はボランティアが基本であること、理念ではなく現実が優先し、ヒロイズムに続けること、他の組織や機関と連帯すること、公平・公正で政府・行政機関公認で力が発揮できること、などなど。こんな組織は他にない。日本赤十字社も広報が上手になった事は嬉しい。

院長になつて救護班を送り出す

ために思うことがある。被災者のため精一杯活動して欲しいし、

無事に帰っ

てきてほし

い。もう一

つ、ことに

当たって気

持ちが伴っ

ていなかれ

ば意味がな

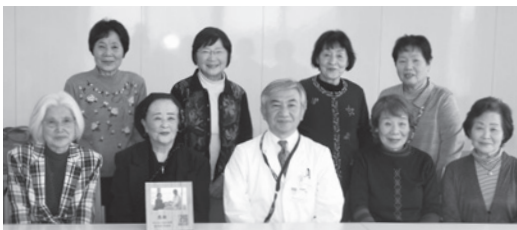
いというこ

と。だから

出発式と帰

還式は大事

にしている。



大居院長を囲んでボランティアメンバーの交流会

## 2019年度総会

4月25日、日本赤十字社島根県支部会議室において、県支部から3名、団員14名の出席のもと総会が開催された。

まず始めに赤十字奉仕団信条唱和、みずうみ赤十字奉仕団国歌斉唱、大塚委員長の挨拶と続いた。そして県支部の岸川事務局長より激励のお言葉を頂いた。次に表彰伝達式で「特別会員章」が溝口さち子さん、吉岡笙子さんに授与された。

議事に入り、30年度の事業報告、決算報告、2019年度の事業計画、予算が原案通り承認された。

最後に役員改選に当たり選考委員の浜田さん、妹尾さんより案を示され、委員長松本淑子さん、副委員長梶啓子さんが選任され、他の役員は留任で承認された。又、地区班の編成も変更があり、43名で一致団結しての船出を確認した。



表彰伝達式（吉岡笙子さん）



(原田)

## 委員長交代に寄せて

## お礼のことば

大塚様には平成24年から今日まで長い間みずうみ奉仕団委員長として、私達団員をお導びきいただき大変ありがとうございました。

振り返って見ますと、さまざまな奉仕活動を通して、大塚様の人を思いやる心、さりげない気遣い、そして豊かな感受性、指導力、すべてが天性のものとして備わっているという印象を受けました。

人生百年と言われる今日、私達みずうみ奉仕団も無理をせず出来ることを力を合わせ楽しく続けていきたいと願っています。

委員長を退かれた後も、くれぐれもお身体に気をつけられ、私達と共にみずうみ奉仕団の伝統を守り、支え、ご指導いただきまます様お願い申し上げます。

これからは、新しい委員長のもと、団員43名をのせたみずうみ号は「すがしき風に帆を上げて 奉仕のこころ花と積み手に手をとって乗りこみし」と団歌にもあります様に、新しい時代と共に新たな気持ちで船出しま



前大塚委員長の挨拶

## 委員長を引き受けて

前大塚委員長の後を受けて委員長役を引き継ぐことになりました。私にはとても荷の重い任を引き受け身が引き締まる思いをしております。前の上川委員長、大塚委員長の下でみずうみ奉仕団の活動をして参りましたが、お二人とも委員長として思いやりの心と、それでいて思慮深くまたきっぱりと決断される姿に感服しておりました。

先輩諸氏にならない、役員の方・団員の皆様のご協力を仰ぎ、みずうみ赤十字奉仕団員としての誇りを持って努めさせていただきます。

現在、団員の減少と高齢化に伴い活動内容を縮小せざるを得なくなりましたが、当面の課題として多発する自然災害への対応と、高齢者の方や児童福祉施設への支援に重点をおいた奉仕団活動を進めて参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(松本)

粘土フラワー  
(桃と菜の花)  
浜田作成

す。どうぞお見守り下さいませ。  
お疲れ様でしたと申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。  
(浜田)



## 赤十字運動月間

## 広報キャンペーン

5月12日(日) イオン松江店

5月の赤十字運動月間に、地域社会へ赤十字に対する理解と協力を呼びかける活動が実施され、日赤職員・他の赤十字ボランティアと共に団員6名が参加しました。

イオン松江店に入店される方、出て来られた方に、日頃の協力にお礼申し上げながら、赤十字のマークのついた絆創膏をお渡しする活動でした。

例年5月の恒例行事だった「地雷犠牲者救援街頭募金」が本社の事情により本年から中止となり、直接街頭で市民の方に「みずうみ奉仕団」のタスキを注視していただく良い機会と思って意気込んで臨んだのですが、急ぎ足の方ばかりで、日赤の名前を連呼しながら絆創膏を渡すのが精一杯でした。

私の持ち場  
は青少年赤十字賛助奉仕団の方と一緒に、若干の交流ができたことは幸いです。

(原田)



イオン松江店にて

## 全国赤十字大会に参加

(雅子皇后陛下をお迎えして)

令和元年を迎えここ数ヶ月様々なイベントを新鮮な気持ちで見えてきました。中でも「令和初の全国赤十字大会」は特別意義深く、新たな時代の幕開けを感じました。



令和元年全国赤十字大会 令和元年5月22日 於:明治神宮会館

それまで30年間名誉総裁を務められた美智子上皇后さまから引き継がれて、新名誉総裁となられた雅子皇后陛下をお迎えし、5月22日に行われた今大会に、みずうみ赤十字奉仕団代表として吉岡笙子さんと参加させていただきました。

表彰式では、雅子皇后陛下より直接功労者の方々に有功章が授与されました。皇后陛下のにこやかではつつとした美しいお姿を拝見して、感激しました。もともと雅子さまのお帽子が大きく二階後部座席からは直接お顔が見えなくて大型スクリーンで拝見しましたが、失礼ながらこの会場で同じ空気を吸っているという満足感に浸っていました。

式典では、近衛前社長の「令和の時代も世界の赤十字が手を取り合い、ともに歩むことを願う」今、この世の中の貧困・孤児・病気を救うために赤十字の存在意義がある」「敵味方の区別なく人々の苦痛と戦い、人間が人間らしく生きるために力を貸す」というメッセージを代読で聞きました。

その後、岡山赤十字病院の医師、斎藤博則さんから平成30年7月の豪雨被害での活動、神奈川県赤十字国際奉仕団の田中友美乃さんからユースボランティアとしての活動について発表がありました。赤十字の一員としての自覚と誇りを胸に抱き明治神宮会館を後にしました。

(松本)



我が家で育てた“赤十字のシンボル”「いとすぎ」

## 戦争犠牲者慰霊塔

清掃・供養

●日時 令和元年9月17日

●場所 縁山公園

●時間 10時～11時

初秋の風を感じながら、太平洋戦争により、多くの尊い命を失われた方々の慰霊塔の周りを清掃し、花、果物、お菓子、お茶を供えました。善福寺ご住職が線香を手向け、松本委員長により御霊に祭文が告げられ、続いてご住職により御霊祭、参加者全員が読経する中、心静かに回向を終えました。

(浜田)



慰霊塔の前で



善福寺ご住職の読経

## にっこにこ寄席をみて

奥出雲の小学生が落語をする？と聞き、とても楽しみでした。お会いすると「だんだん祭り」で見かけるかわいいゆかた姿のお子さんのよう。青葉亭のはな歌さん、八朔さん、ひまわりさん、ゆうかりさんと紹介される。その小学生が、いったん高座に上がると、はつきりとした江戸言葉で、笑顔そして目をキラキラさせ、身をのり出しての落語。特に印象に残っているのは、東京駅に行きたいのになかなか連れて行ってもらえないくだり。人力車にのり「東京駅」「へえい」と、自分もお客になったような気分。人力車で都内をぐるぐるぐるぐる、なかなか東京駅に着かず、右往左往。ゆっくりゆっくり走るの「もっと早く」と言うと「今、名古屋」と言う。「東京駅に」と身をのり出し、身体全体での車夫と客のやり取り、目にみえるようでひきこまれます。そこへ東京駅ならぬ宍道湖・松江城が出て来てびっくり。もり上がり、大いに受け、笑えました。又、オリンピック誘致



はな歌さんの落語

や市職員になりすまし還付金サギ等、今旬の話題を取り入れユーモアたっぷり。たった10年

余りしか生きていない小学生のそそとした足どり、和服での身のこなし、座布団へのすわるさま、終わったあ次の方へ座布団をうら返す等、忘れがちな本来の日本人のていねいさ、奥ゆかしさを身につけている。出雲弁も全く出ない。本当に大人として、驚きでした。出雲弁は本を読んで直つたと聞きました。人の暮らしにそつた落語。落語という伝統を守り新時代につないでいき、今日の老若男女の暮らしを潤し、笑いは人生の栄養に。

奥出雲の高尾小学校で『教育にへき地はあつてはならない』との宮森元教頭先生の熱いご指導が、今の自信に満ちた子供達の成長に繋がっている。素晴らしい寄席をみて頂きました。

(鐘築)



当日の落語家4人



団員手づくりの防災頭巾をプレゼント



## 高尾小学校の児童と共に ボランティア活動

高尾小学校のここに寄せを鑑賞した後、児童と共に昼食タイムに入りました。席の並びは児童の提案で我々団員の間に一人ずつ入っての会食になりました。その発案に感謝し、食事をしながら歓談できたことに感激しました。家ではおばあさんとかうやって時には落語の話をしなから一家団欒の時を過ごしているのかしら?と思いました。

昼食後、児童は日赤鳥根県支部の災害支援グッズなどがある倉庫見学、その後団員と共に活動しました。

古布ふきんづくりをした後、支部の森山倍子看護師さんに災害時高齢者生活支援講習をしてもらい、災害時に避難されている方々の窮屈な避難所生活のストレスが和らぐように支援する者としての心得と技術を学びました。お風呂に入れない状況下で必要なホットタオルの作り方、必需品を一つにまとめて運べる風呂敷を使ったリュックサック作り、手足を自由に動かせない場所で緊張した体をほぐすリラ



児童と共にふきんづくり

クゼーションのやり方など。

災害が多い近年、私たちの周りでもいつ起こるかわからない有事に備えて大変役立つ講習でした。被災者支援などのボランティアに励む児童のみなさんもきっとこの講習を有意義に思ってくれたことでしょう。何をするにも積極的で熱心な児童の態度にただただ感心するのみでした。(松本)



リラクゼーションの実習

## ちようちょキャンペーン

### 松徳学院高等学校生と交流会

2月12日、生徒さん24名とちようちょキャンペーンを通して交流を行いました。

松本委員長の講演により、悪魔の兵器といわれる対人地雷への理解を深め、地雷廃絶の必要性の共有を図った後、「地雷廃絶日本キャンペーン」(オタワ条約未



松徳学院の生徒とちようちょカード作成

参加国へ参加を促す活動)をしました。

生徒4班のグループに団員も加わり、未参加32ヶ国への条約参加を求めるメッセージを添えたちようちょカード768枚が作成できました。



作成したちようちょ 3718 枚

団員が中心となって取り組み集計した2950枚に、768枚を合わせ、3718枚を事務局であるリズムネットワークに送りました。国内分のちようちょはリズムネットワークを通して、各国大使館に届けられます。

平和への願いをちようちょカード一枚に託し、「対人地雷全面禁止条約」(オタワ条約) 結集へと大きな羽ばたきになるよう祈りましょう。

(大塚)

交流活動を通して

作った生徒さんの福

祉カルタより(抜粋)

・戦争は 無駄な争い やめようよ  
・勇気出せ 助けあうこと 大切だ  
・わだかまり 無くして 平和に 良い笑顔



## 古布ふきんづくり

みずうみ奉仕団の活動のひとつに古布ふきんづくりがあります。この活動は数10年前から諸先輩方がされていたボランティア活動を今日まで受け継いでいます。年2回皆さん方のご協力により集まったシャツ、タオル、木綿の服等々を材料にします。団員が慣れた手つきで机いっぱいに広げた布を30センチ四方の大きさに裁断します。団員間で談笑しながら2時間程の作業が終わる頃には段ボール3〜4箱ギッシリ出来上がります。出来たふきんは市内の高齢者福祉施設へ持参しますが、喜んで受け取って下さる職員の方々の見送りを受け、この活動が役に立っているという満足感をいつも感じています。団員が高齢化していく昨今、無理をせず座って出来るボランティア活動なので今後も継続していきたいと思えます。団員の皆様方の参加をお待ちしています。

(青木)



団員でふきんづくり



高齢者施設にふきん持参

## 児童福祉施設支援金

贈呈先施設からみずうみ赤十字奉仕団に届いた礼状の一部を紹介します。

謹啓 厳寒の候、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

平素から当施設の活動につきましては格別の御配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度は医療型障害児入所施設「島根整肢学園」に対しまして、年末義援金として心温まる御厚志を賜りましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。

当施設では、年齢も持っている個性も様々な利用者の方々が、医療的なケアに支えられつつ、養護学校で好きな勉強をしたり、自由時間を楽しまれたりと、各自にあわせたペースで日々の生活をしつかり過ごされております。こうした利用者の方々に対して、児童福祉施設支援金という形で温かい善意を受け取るたびに、私どもは善意の向こう側にある皆様方の思いにいつも頭が深く下がります。今回拝受いたしました御厚志につきましては、こうした皆様方の思いに込められるよう、利用者の方々にとってお役に立てるよう



## 支援金の活用状況(一部)



おもちゃの購入



自転車の購入



卒業生を祝う会



花の苗植え

## 贈呈先

(島根県内13か所の児童福祉施設)  
松江赤十字乳児院、双樹学院、安来学園、聖喤寮、みらい、わかたけ学園、松江学園、さざなみ学園、くるみ邑美園児童部、こくぶ学園、仁万の里児童部、島根整肢学園 松江整肢学園

に使わせていただきたいと存じます。私どもも障害のある方の医療福祉の向上を目指し、これからも一層の研鑽に努めてまいりる所存でございますので、今後とも御指導、御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。最後にになりましたが、貴団の益々の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、略儀ながら書中をもってお礼申し上げます。

謹言

令和2年1月31日

医療型障害児入所施設  
島根整肢学園 園長 中寺 尚志



## こんにちは(団員の近況報告)

## 我家のお正月 池田 裕子

令和になって初めてのお正月、我家は例年とは少し違う形で迎えました。

義妹は、次女と二人でカウントダウンコンサートに出かけ、嫁いだ長女からは、帰省が遅れると連絡がありました。私は、無口な弟と二人で紅白を見ながら年越しそばを食べ、一人除夜の鐘を聞きました。

他界した父が7人兄弟の長男で、1月2日が親族が集まっていたの新年会と決まっていたので、年末から年始にかけて我家は大忙し。当日は義妹と2人で箱根駅伝の様子を背中中で聞きながら、1日中台所で過ごすというのが恒例でした。お正月休暇は海外や温泉で、という人達を羨んだものです。

迎えるのは、大変でしたが、いろいろ都合のある中、来る方も大変だったのではないかと思います。父を思ってきてくれていたのだと思いますが、父に続いて叔父、叔母も帰らぬ人となると、従兄弟達の足も少しづつ遠のいて行きました。のんびり、マイペースのお正月を経験してみると、「やつぱりお正月くらいは皆が揃って賑やかな方がいいね」などと、父と同じ事を口にしてはいる自分に気付きます。

1日の夕方にやっと家族全員が顔を揃

え、長女が料理教室で教わりながら作ったというお節をいただきながら新年を祝いました。

皆様はどんなお正月をお過ごしでしたでしょうか。

今年一年、皆様にとつてどうか良い年でありますようにお祈りいたします。



## 私の今の思い……。梶 啓子

令和になっての新年を迎え、健やかに暮らせる一年であります様にとの思いです。

顧みますと私は、みずうみ奉仕団に入団させて頂いて10年余りになります。施設訪問、街頭募金活動、慰霊塔清掃供養、ふきんづくり、病院ボランティア、乳児院洗濯物たたみ、海外たすけあいバザー、松徳学院とのふれあい交流会等、思えばなつかしく、又、団員の皆さんと共に和気あいあいと活動させて頂いたこと、良い思い出になっています。

今後もある間は、生かされていることに感謝しながら、お世話になった方々にお返しする時期だと思い、奉仕させて頂き、そして自分なりに思うことは、教養「今日用事がある」教育「今日行くところがある」に心掛け、それが私自身のほけ防止と健康につながることでないかと思いつつ頑張っています。

これからも、みずうみ奉仕団の活動がより一層充実し、今以上に大きく広がることを念じ、又、にこやかに人との対話を大切にしながら飛躍出来ることを希望しています。

## 朝の散歩

金織 玲子

友人と朝20分位歩く事にしています。毎日歩く道を変えて話しをしながら歩く。御夫婦で歩いている方「おはようございます。」と挨拶をかわす、ご老人達も二人とか一人で朝の散歩をしている人が多い。

故中沼アサノ委員長宅の前を通ると家屋もこわされ荒れ地になっていた。元気な時よく中沼委員長宅で荘田さん・石倉さん・森脇さん達と料理をしながら奉仕団について話を聞いた事を思い出す。

天神川添いに花壇が出来、手入れも行き届き、どなたが作られたものかしらと友人と話していた。最近、近くのご老人が頑張って手入れをされている姿をよく見かけるようになった。

あざやかな花の色が朝の散歩の目を癒やしてくれる。



## 2019年度事業報告

1. 総会  
4月25日(木) 日赤島根県支部 参加14名
2. 赤十字運動月間広報キャンペーン  
5月12日(日) イオン松江店 参加6名
3. 全国赤十字大会  
5月22日(水) 明治神宮会館 参加2名
4. 日赤島根県支部 赤十字奉仕団委員長協議会  
6月20日(木) 日赤島根県支部 参加1名
5. 古布ふきんづくり  
6月24日(月) 日赤島根県支部 参加10名
6. 戦争犠牲者慰霊塔清掃、供養  
9月17日(火) 緑山公園 参加6名
7. 小学生による落語鑑賞会  
11月12日(火) 午前  
日赤島根県支部 参加14名  
他に賛助奉仕団員6名、  
地域奉仕団員10名、一般40名  
災害時高齢者生活支援講習・古布ふきんづくり  
11月12日(火) 午後  
参加14名 高尾小児童4名
8. NHK 歳末・海外たすけあいフェア  
オープニング 12月2日(月)  
NHK 松江放送局 参加2名  
バザー 12月15日(日)  
いきいきプラザしまね 参加10名
9. 児童福祉施設支援金贈呈  
12月17日(火) 日赤島根県支部
10. ちょうちょキャンペーン  
12月～2月
11. 松徳学院高校生とのふれあい交流会  
カンボジア、地雷について説明  
1月29日(水) 松徳学院高校  
参加 団員1名 生徒24名  
ちょうちょキャンペーンの説明、ちょうちょ  
づくり指導  
2月12日(水) 松徳学院高校  
参加 団員4名 生徒24名
12. 東日本大震災義援金贈呈  
3月26日(木) 日赤島根県支部
13. 病院ボランティアメンバー交流会(延期)  
松江赤十字病院

## 年 間 事 業

1. 松江赤十字病院ボランティア
2. 松江赤十字乳児院ボランティア
3. 高齢者施設訪問(古布ふきん持参)
4. 赤十字会員加入、活動資金募集
5. 特別義援金、救援金贈呈
6. 情報誌「レッドクロスみずうみ」刊行
7. 役員会

## あ と が き

新元号が平成31年4月1日発表され、日本中の人達の胸がときめき、高揚したその瞬間は今でも思い出されます。

新しい時代の幕開けとなった令和元年、日本人のノーベル化学賞受賞や、ラグビーワールドカップで日本チームの初のベスト8選出と明るいニュースがあった一方で、台風15号、19号による大きな自然災害も発生しました。改めて自然災害に対する備えの大切さを痛感させられました。

又、中国武漢で発生した「新型コロナウイルス」が感染拡大し、日本はもとより今や世界中に広がり、政治・経済に未曾有の影響を及ぼしています。更なる拡大を防ぎ、一日も早い終息を願い、延期となったオリンピックが再開されることを願っています。

レッドクロス第47号をお届けします。発行に伴い沢山の原稿をお寄せ下さいました団員の皆様ありがとうございます。(浜田)

ザレッドクロスみずうみ第四十七号

令和二年三月三十一日発行

発行者 松江市内中原町四十番地

日本赤十字社島根県支部内

みずうみ赤十字奉仕団

委員長 松本 淑子

編集委員 ◎松本 淑子・浜田 光代

原田美智子・池田 裕子

小林 七彩

印刷所 有限会社江陽印刷

☎(〇八五三)六二一三二七八